

会議の名称	令和5年度第1回茅野市総合計画審議会		
開催日時	令和5年4月25日(火) 18時30分～20時10分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 副市長挨拶</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 第6次総合計画構成案に対する主な意見等について 資料1</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 第6次茅野市総合計画策定の考え方について 資料2</p> <p>(2) 第6次茅野市総合計画骨子(案)について 資料3</p> <p>(3) 主な意見等から見えてきた課題について 資料4</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p>		
	会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>本日の議題の中にも出てくると思うが、ピンチをチャンスにとということで少しお話をさせていただく。</p> <p>現在諏訪の裁判所の調停手続きのお手伝いをしているが、先日調定協会の定期総会があり、そこで長野地方裁判所本庁の裁判官の挨拶の中で、本当に驚いたことがあった。その裁判官は、今年、長野県の本庁に赴任された方で、前任は東京地方裁判所の所長代理をされており、約300人の裁判官を統括されていて、裁判所におけるDXの推進役として活動をされていたというお話しをされた。かねてから調停手続きや裁判手続きについて、デジタル機器を使用して、裁判所に出頭しなくても調停、裁判が行われるような研究をしていた矢先にコロナ禍が発生して、通常の対面型の調停や裁判手続きができなくなり、全国的に事件が大きく滞留した。それを打開するために、DXの研究に拍車がかかったようで、3年ぐらい考えていたことが、3か月くらいのスピードで進んでおり、間もなくその研究が実践に移ること。私たちの住む茅野市も、DXについて幸いにも国から特区の指定を受けており、大変大きなチャンスをいただいていると思う。</p> <p>コロナ禍は私たちの生活に大変大きなダメージを与えたが、それをピンチととらえるのではなくて、チャンスととらえることで、与えられた課題の解決が大きく前進するのではないかということを感じた。</p> <p>本日も多くのことを皆さんにお話しするので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>3 副市長挨拶</p>	

副市長	<p>本日はお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>統一地方選挙も終わり、今井市長が二期目の市政を任されることになった。まちづくりの方向性、指針となる総合計画の非常に重要な策定作業が今井市政の2期目のスタートになると捉えている。</p> <p>総合計画のまちづくりの考え方については、市民の皆さんが乗る茅野市という大きな船がどこを目指すのか、その価値とか方向性というものをしっかり議論して、合意形成を図っていくということ。いろんな意見があると思うが、最終的には一つに落ち着いていることが大事だと思う。</p> <p>先日、この総合計画審議会だけでなく、行財政審議会、DX協議会、地域創生総合戦略有識者会議で合同会議を行い、市政に関わる多くの皆様が、意識を共有していくということはとても大事だと感じた。</p> <p>この総合計画審議会の中でも、茅野市の持つ価値や意味というものを十分議論していただき、それを一定の手続きの中で議会にお諮りし、市民の皆様にお知らせし、またご意見をいただき、市全体としての目指す方向をまとめていただきたい。本日も活発なご議論をお願いしたい。</p>
事務局	<p>審議会等の公開について</p> <p>この審議会は公開することとし、議事録については発言者の氏名を匿名とした上でホームページに公開することとしたいがよろしいか。</p> <p>(一同異議なし)</p>
事務局	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 第6次総合計画構成案に対する主な意見等について 資料1</p> <p>=企画係長が説明=</p>
事務局	<p>5 協議事項</p> <p>(1) 第6次茅野市総合計画策定の考え方について 資料2</p> <p>=企画係長が説明=</p>
会長	<p>資料2では、6次総策定の考え方を整理していただいたと認識している。特に5次総が途中の段階でなぜ6次総の策定に至ったのか、その考えを深めていくような構成になっていると感じている。何度もお目通しいただいているとは思いますが、説明の内容にご質問があればお出しいただきたい。</p> <p>意見等なし</p>
事務局	<p>(2) 第6次茅野市総合計画骨子(案)について 資料3</p> <p>=企画係長が説明=</p>
会長	<p>ご意見、ご質問については1ページずついただくような形でお願いしたい。</p> <p>まず1ページで、全体構成の流れと考え方を説明いただいたが、与件の整理の中に、新たに強みが示されていたり、脅威から課題にフォーカスするような形になっていること、また、基本構想、基本計画、実施計画という体系になっていることなどが書かれている。その後、まちづくりのイメージということで地球儀の半分のような図で出ているが、今まで総合計画の中で目的、すなわち、何のためにという部分がありませんでしたが、今回初</p>

	<p>めてこういう形を出していただいたんだらうと捉えている。ウェルビーイングの話はこの後に協議事項で出てくるので、そこで皆さんからご意見をいただきたい。</p> <p>それでは、まず1ページの全体構想の流れと考え方について、ご意見、ご質問をいただきたい。</p>
委員	<p>基本的には今まで議論してきたことがベースになっており、内容的には皆さん良く分かっていると思う。部分的にはもう少しこうした方がいいということはあるが、全体構想としては、もともとよく考えられていると思っていたので、この形でいいと思う。</p>
会長	<p>次に2ページについては、与件の整理の中で、茅野市が守り、育んできた大切なものは何ですか、ということで茅野市の強み、特色を出していただいている。次に茅野市を取り巻く環境の変化ということで、脅威だったりチャンスだったりが出てきている。次に今茅野市が直面している問題は何なのか、ということで、弱みについてフォーカスしている。最後に課題として、いろんな問題点を改善するために必要なことを挙げているというような形。今までの会議の中で、十分議論してきたことが盛り込まれていると思うが、何かご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>SWOT分析は会社を分析する時には多くとる手法であり、それを取り入れることはいいと思う。強みについて、茅野市には開拓できる土地がまだまだたくさんあり、住宅や工場などが誘致できると常々思っている。</p>
会長	<p>土地の広さというのは非常に重要な強みである。入れ込めるかどうか事務局で検討して欲しい。</p> <p>次に3ページの基本構想について、この部分については今後文章でボリュームアップしていくということだが、ここにある着眼点でいいか検討いただきたい。また、いろんなご意見をいただく中で、以前の会議で交流拠点の意味合いについていろいろご意見いただき、結果、いいのではないかということになったと思う。また、縄文についても次の協議事項で深掘りをしたいと考えている。それ以外にご意見いただけたらと思うが、何かお気づきの点等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>内容は今までと同じなのでいいと思う。これからの議論で深めていければと思う。</p>
会長	<p>基本構想の中で、これまでいろいろご意見いただいたのは、「幸せを実現できるまち」ということで、幸せとは何だろうというところ。また、しなやかさ、という言葉の中には多様性が含まれているのかということ、交流拠点のイメージも議論した。DXとGXもあるが、アナログも大事である、ということで、アナログの再構築という話が出てきた。後で話が出てくるが、縄文の精神性についても、茅野市の持っている特徴だと思うが、SDGsにもつながる考え方になるということで、ここにキーワードとして挙がっていると思っている。</p> <p>目標2の、たくましく、やさしい、しなやかな、という言葉に関連して、「稼ぐ」という言葉はどうなのか、という話もあった。この言葉は、たくま</p>

	<p>しく活力あるという意味だと思うが、後でご意見をいただけたらと思う。</p> <p>まちづくりの3つのポイントについては、目的指向、何のためにやるのか、ということと、未来志向、今のことじゃなくて将来のために何ができるかということ、そして、自分ごと化ということで、これも茅野市の強みだと思うが、市民も参画して、みんなで作る、自分のこととしてとらえるということが非常に大事だと思う。</p> <p>ここまでで何かご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>これまで議論されてきた内容であり、これでいいと思う。次に議論する「幸せを実現できるまち」が気になっている。</p>
委員	<p>6次総の全体の流れやロジックはこれでいいと思う。これを基本にして走りながら考え、削ったり追加したりしていけばいいと思う、</p>
事務局	<p>(3) 主な意見等から見えてきた課題について 資料4 =企画係長が説明=</p>
会長	<p>ウェルビーイングという言葉は、とてもいい言葉のようだが、横文字であるということと、まだ一般化していないところちょっと引っかかる方がいるんだろうと思っている。私も審議会でいろいろと説明を聞いていたが、この間テレビで、ウェルビーイングという言葉が普通に使っている場面にも出くわしたが、まだ少しもやもやしているところもある。事務局が新しく入れた説明の1ページ目の上から3行目に、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち、ということから少し考えてみると、交流が盛んになって人の幸せが、隣の人にも連鎖してく、そういうまちというイメージも持った。そして、もっと自分なりにウェルビーイングを考えてみると、しなやかさの中に、多様な人が自己実現できるようなまちが茅野市で、そこで幸せが実現しているのではないかと、個人的にはそんなイメージを持っている。</p> <p>幸せという言葉はいろんな意味を含んでいるが、その辺を副会長からお話しいたきたい。</p>
副会長	<p>この幸せという言葉は、慣れ親しんでいるようで、実は慣れ親しんでいないという気がしている。固定概念に縛られているような気がして、見れば見るほど違和感を感じてはくるが、ここで大きく世界も変わり、皆さんの感覚も変わってきた中で、この幸せという字に、にんべんをつけてみたらどうかというのが私からご提案である。茅野市のパートナーシップのまちづくりや交流拠点などをいろいろ考えて、この自己実現が可能なまちになるべくしてこれから計画が練られていくが、やっぱり、鍵は人だと思う。茅野市は「個」を完成できるまちだと思って私は育ってきたが、「個」もやはりにんべんがついている。そのにんべんをとってしまうと非常に固いものになってしまう。人と人との関わり合いで生まれてくるものはとても大きい気がして、この幸せという言葉に縛られないためにも、にんべんをつけて幸せというのはどうか、ご意見を伺いたいと思う。</p>
会長	<p>副会長さんの思いがそこにはあると思うが、その辺のところも検討していただきたい。</p>

委員	<p>この会議に出て説明を受け、調べることで勉強になった。普段から出てくる言葉ではないが、調べれば調べるほどいいと思えてきた。国や県でも使われている言葉でもあり、これからもっと知名度が上がっていく。この基本構想の中でも、丸カッコではなくカギカッコなどで括って、ウェルビーイングをみんなが感じられるまちなしにしていけばいいと思う。資料にあるような言葉で説明するよりも、身体、心、社会的なつながりの3つが自分の中で一つになる、それが実現すると幸せを感じ取ることができるというような、わかりやすい図で書くと、皆さんの中で胸に落ちていくのではないかな。文章にすると固く感じる。</p> <p>茅野市を訪れる人、茅野市に住む人、働く人、という書き方があるが、茅野市に住む人が一番最初に来るのではないかな。順番が違うと思う。</p> <p>にんべんの幸せについては、もう少し良く考えてみたい。</p>
委員	<p>福祉の視点が抜けているのではないかな。動物もウェルビーイング。鶏を飼う時も、昔のように狭いところではなく、広いところで自由にさせている。それが動物のウェルビーイングを実現しているということ。</p> <p>にんべんをつけるのはいいと思う。言い方を変えると、人間らしく生きる権利を保障できる、というのが大きな意味で、茅野市民に受取ってもらえるようになる。弱い人を含めた人が人間らしく生きる権利を保障されるのがウェルビーイングである。弱者に対するウェルビーイングというのを感じられるよう、言葉に気を付けないといけない。行政としては、セーフティネットが重要なので、そのような意味が取れるようになるともっといいと思う。</p>
委員	<p>ウェルビーイングについては、ずいぶん昔から使っていて、馴染みがある言葉である。WHOの定義としては、身体、心、社会的なつながりの3つが持続的に幸福な状態ということなので、3つの要素を出していくとわかりやすいと思った。</p> <p>福祉という言葉で最初の目的、目標に入れるとすると、どのように入れたらよいかイメージができない。あらゆる人、という表現以外にどのような表現がいいのか、私も考えてみたい。</p>
委員	<p>前回の会議で、副市長さんが憲法の中にウェルビーイングの考え方があるとおっしゃった。すべての国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に関する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする、とされている。</p> <p>また、先ほどおっしゃっていたとおりWHOは、健康とは病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態、それをウェルビーイングと言っている。古くからウェルビーイングという言葉は生きているが、最近になって非常に脚光を浴び出して、各大学の若手で優秀な研究者が中心になり、ウェルビーイングに関する研究を始め、昨年ぐらいから学会を立ち上げたりしている。これに目を付けたのがデジタル庁で、資料にも出てくるとおり、ウェルビーイングを数値化して把握する指標を提示しており、市もそれを計画の進捗管理に取り入れていくということだが、だいぶ国内でも定着してきている。数値化して把握する際、難しいとは思いますが、茅野市独自の形でできればいい</p>

	<p>と思う</p>
会長	<p>ウェルビーイングは普及しつつあるので、それなりの扱いをしてもいいと感じている。幸せという言葉については、ひらがなの「しあわせ」と漢字の「幸せ」、にんべんがついた「倅せ」について、ご意見等あれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>言葉的に市民にはっきりわかるのはにんべんを付けない幸せである。凝ったものを作るのがいいとされたり、一つの漢字に何かの思いを伝えたい、さらには、小説などに入れるのであればにんべんを入れてもいいと思う。ウェルビーイングは計画に入れなくてはいけない言葉であると思う。</p>
会長	<p>次に、「稼ぐ」という言葉だが、お金に執着しているイメージになってしまうというご意見だが、辞書で調べてみると、もともと穀物を育てていくというような意味がある。それがお金を稼ぐというようなイメージになっている現状。ご意見はいかがか。</p>
委員	<p>「稼ぐ」という言葉に引かかる人は当然いると思う。引かかるのが悪いかというと、それだけインパクトがあるとも捉えられる。誰にでもすんなり入っていく言葉にすると、違和感はないが、印象に残らないと思う。人が移住する、一旦出て行った人が戻る、そこに仕事があるかどうかということは非常に大事であり、それをわかりやすく示すという意味で、「稼ぐ」という言葉があってもいいと思う。</p>
会長	<p>縄文について、補足的なご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>縄文という言葉が計画に載ることがうれしく思う。縄文文化が日本の基層文化であるということを皆さんおっしゃっているので、その部分をどのように取り込んでいくのが大事である。縄文の精神性などは、まだ明らかになっていないので、勉強会が必要である。その部分がもう少しクリアになった後で、計画に文章として載せていただきたい。縄文文化を継承するまち、だけでは足りない。では何かと聴かれても答えられないことが多すぎる。5ページの「唯一無二」は言い過ぎかなと思う。そこまでいうと恥ずかしいので、削り。大事な財産などとして欲しい。</p> <p>毎日新聞に「形だけのDXが分断を加速する」という記事があった。簡単に言うと、チャットGPTは天才が書いたようないい文章が出てくるが、そこには人間の情や心がないということを危惧している。</p> <p>ここにあるような幸せという言葉を書きで書いてしまうと漏れる人がいっぱい出てくるのではないか。であるならば、3つの丸を書いて、中心部分がウェルビーイングであると表現した方が、茅野市の目指す目標には近いと思う。いずれにしても、「幸せを実現するまち」という部分は、茅野市の計画の中で一番コアになり、大事な部分である。</p> <p>以前、普遍性という話が審議会の中であったが、どこのまちでも使えるような文章にしないといけないが、茅野市独自の文章であることも必要である。独自性と普遍性を同時に備えていなければならない。縄文は独自性、幸せは普遍性と言えるだろう。これから文章をもまないといけないと思うし、考え方についても、もっと深化した、哲学的な言葉を駆使していきながら、文章</p>

<p>会長</p>	<p>にしていかなければならないと思う。</p> <p>縄文の精神性については、興味があり、大事なことだと思っている。個人的な質問でいけないが、縄文では稼げない、という人もいるが、その辺の感触はどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>縄文の文化や遺跡で、莫大な財産を築くことは多分できない。しかし、三内丸山は違う。茅野市の考古館とは比べ物にならないくらい大きくて、人も多く来ている。そこにはいろんなお土産や食堂もある。</p> <p>「稼ぐ」ということとは遠いかもかもしれないが、「稼ぐ」の根底にある人間性について、例えば犯罪を犯さないというような当たり前のことを自分の心の中に落とし込むような精神性には、縄文の文化は役に立つと思う。</p> <p>先ほど言えなかったが、ウェルビーイングの資料にある3つのウェルビーイングの定義に当てはまるような人がいたら、それはお坊さんのような崇高な精神性を持った方だろうと思う。そういった方が「稼ぐ」ということに目を向けるかなと思った。しかし、物心両面という言葉もあり、物は稼ぐことで、心は縄文のように置き換えられると思った。</p>
<p>会長</p>	<p>本日は、これから文章を作っていく中で、大事で基本的な部分になる骨子について、検討いただいた。今後は、いろんなご意見等を文章に入れ込んでいく作業になる。事務局として、何かお伝えしたいことはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見等をいただき、参考になった。本日の資料のベースになったのは、これまで議論いただいた基本構想になる。今後、いただいたご意見等を参考にさせていただきながら形を作っていく。</p>
<p>会長</p>	<p>審議会で議論する時間には限りがあるので、その中で事務局に様々な意見をいただきたいと思う。本日都合が悪く欠席された委員からメールでご意見をいただいたので、ここで紹介させていただく。</p> <p>企画係長読み上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Well-Beingに関する私見 ・各国の国民の幸福度などを比較するのに、指標はいろいろある。 ・これまでは所得やGDPなど経済的側面に重きが置かれて、それらがよく扱われてきたと思うし、それを元に「格差」も言われてきたかもしれない。他には例えば平均寿命もそう。 ・しかしながら、最近取り上げられるようになってきたこの「Well-Being」は、経済的側面ばかりではなく、もう少し別の「幸福感」、例えば、自己実現や日々の充実感、人間関係、生活環境、社会的つながり、それらに対する満足度、生きがい、といったものも含めた総合的な幸福度を測ろうとしている。 ・一応、いくつかの指標が提出されていて使われたりしているが（それでいくと、日本はけっこう低いところになってしまう）、次第に世界的にも重要な概念として定着していくと予想している。 ・茅野市が今回の総合計画で積極的にこの概念を取り上げるのは賛成。 ・しかしながら、指摘があるように、なじみ深い言葉ではないし、何かいいフレーズと併用する期間が一定必要である。

<p>会長</p>	<p>・そこで、Well-Beingを使う時にはカッコ付きで、Well-Being (生きていることの満足感、しあわせ感) というのは例えばどうか。</p> <p>貴重なご意見をいただいた。今後の参考にさせていただく。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回会議は、5月24日(水)の開催を予定している。</p> <p>次回までに、できるだけ早く素案を作成の上、メールにて委員さんにお送りし、ご意見等をいただき、修正等入れたものを会議に提示したいと考えている。</p>
<p>副会長</p>	<p>6 閉会</p> <p>事務局でまとめていただいた資料から、いろいろなものが明確に見えてきたような気がする。また、皆さんのご意見により、リアルな計画として光が当たってきたと感じた。</p> <p>それでは、第1回の会議を閉じさせていただく、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>